

各 位

2026 年 7 月 22 日
株式会社リットーミュージック

ベース・マガジン 2026 年 8 月号は、誕生から 75 年を迎えた
フェンダー・プレジジョン・ベースを、130 ページを超えるボリュームで大特集



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『ベース・マガジン 2026 年 8 月号』を、2026 年 7 月 21 日に発売しました。

■書誌情報

書名：ベース・マガジン 2026 年 8 月号

定価：2,530 円（本体 2,300 円＋税 10%）

発売：2026 年 7 月 21 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/magazine/detail/3126118004/>

The Precision Bass ～すべての原点、プレジジョン・ベース

1951 年、レオ・フェンダーによって生み出された「プレジジョン・ベース」は、ベースという楽器の概念を一変させました。小型化による容易な運搬、マグネティック・ピックアップを使っ

た大音量の出力、フレットを打つことによって生み出された正確（プレジジョン）な音程など、革新的なアイデアの数々を纏い、ウッド・ベースから“低音”の座を奪い去ったのです。このプレジジョン・ベースが雛形となり、現在までに多くのエレキ・ベースが誕生しました。この楽器がなければ、エレキ・ベースの現在ではなかったと言っても過言ではないでしょう。

誕生から 75 年。すべての始まりであり、エレキ・ベースの基本、そしていまなお王道として君臨するこの魅力的な楽器を、『ベース・マガジン 2026 年 8 月号』では表紙巻頭企画としてフィーチャーしました。

50 年代から 80 年代までのヴィンテージ・モデルの解説から、J (LUNA SEA) × ウエノコウジという“プレジジョン・ベース・アイコン”による特別対談、アーティストの愛用プレベ紹介、現行プレジジョン・ベースの徹底検証、プレジジョン・ベース名盤など、多彩なコンテンツでこの楽器の魅力に迫ります。また、付録の小冊子ではプレジジョン・ベースで演奏された名曲のベース・スコアを掲載。本誌内特集と小冊子を合わせて全 130 ページを超える大特集となっております。プレジジョン・ベース・ファンには「永久保存版」と言える内容です。

■コンテンツ内容

- ・写真で辿る、50 年代～80 年代ヴィンテージ・プレジジョン・ベース
- ・仕様変遷で紐解く、プレジジョン・ベースの歴史
- ・P-BASSISTS SPECIAL FEATURE ～ J (LUNA SEA) × ウエノコウジ
- ・PRECISION BASS ICONS
- ・THE P-BASS LOVERS' GALLERY （小原礼、川上つよし [東京スカパラダイスオーケストラ]、草刈愛美 [サカナクション]、グレートマエカワ [フラワーカンパニーズ]、関根史織 [Base Ball Bear]、高木祥太 [BREIMEN]、高田雄一 [ELLEGARDEN]、丸山隆平 [SUPER EIGHT]、MIYA [ZAZEN BOYS]、山田貴洋 [ASIAN KUNG-FU GENERATION]）
- ・音楽史における、ベーシストとプレジジョン・ベースの関係性
- ・P-BASS LOVERS CHRONICLE ～幾千のグルーヴを刻む愛器の記録
- ・厳選！プレジジョン・ベース名盤
- ・現行プレジジョン・ベース徹底検証 —— 最強の 10 本 by 穴見真吾（緑黄色社会）× 休日課長（ゲスの極み乙女、DADARAY、ichikoro、礼賛）

■特別付録小冊子

プレジジョン・ベースが支えた名曲楽譜集

- 「I Want You Back」 ジャクソン 5
- 「What's Going On」 マーヴィン・ゲイ
- 「Killer Queen」 クイーン
- 「The Number of the Beast」 アイアン・メイデン
- 「世界の終わり」 THEE MICHELLE GUN ELEPHANT
- 「恋」 星野源



最初期プレジジョン・ベースと同仕様の
スラブ・ボディの最終型

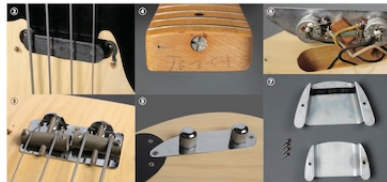


プレジデン・ベースがミュージシャンに受け入れられ認知度を上げたのは、1963年以降。そのきっかけを作ったのは、モン・モンバリアーなどの、ジャズを演奏するベースストリートという、正確なベースは不明だが、1963年以降はプレジデン・ベースの生産本数も増え、現在、国内のヴァンテージ・ギター・ショップなどで目にすることもある。

写真は1964年製で、あまり輝いていなかったため、楽器に付属した通称「ブードルルグス」まで極上のコンディションを保っていた一本。1964年の頃からは、ス



ラウキスターで採用されたボディのカラー加工がブレンジジョン・ベースにも導入され、ブリッジのサドルがスティール製へとわいていく。さらに1954年後半からは、フニッシュもサンパズジョン・ベースに似えさせた。結局ブレンジジョン・ベースに近しいものを求めるのはこの年まで。この傑作は愛蔵的仕様で、ネック・ディンプルと1950年の仕様となっており、新年に見ると1950年とわかる。ちなみにネック・ポケットに載せるボディ・ディットは1953年の121だった。



③チューナーはアップライト・ベース用のクルーン製が用いられたが、エレクトリック・ベース用加工されている。ギアのボルトは、1958年頃までサイナス・ネジが使われていた。もちろんベースプレートに留めるネジはすでにプラス。④この年中期からピックアップは、3弦が強いスタギー・ボールペン仕様に変更されたが、この個体は

ドフラット。③ブリッジ・サドルもまだファイ
製だが、この年の途中からスチール製へと
された。④フッカー・エンドには木工加工が終了
年月が記されて記載され、加工後の「D」（タ
ゴメス）のサインも入っていた。⑤元々テレ
スター用に開発されたと言われるベース・プレ
は、プレジジョン・ベースにも採用。矢張り

を落してドーム・ノブは、1963年頃から使われ始めた。③タラシタット（※140のスタンプから）製のヴォリュームもトーン・ポットは、250kΩのオーディオ・ターミネー。キャパシターには、コーネル・デュプリア製のペーパー・オイル・コンデンサー（※150が便利であった）。④ブリッジ・カパーには従来150μFするためのラダーが付く。

26 SEP 2024 AUG

BM 2024 AUG 27

▲ウィンテージのプレジジョン・ベースを細部まで分析。



▲プレベ・ベーシストの代表格、Jとウエノコウジが初対談。



▲ベーシストが自身の愛するプレジジョン・ベースについて語る。

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp